

育児における父親の役割に関する研究

川井 尚¹⁾，庄司 順一²⁾，横井 茂夫²⁾，若麻績佳樹²⁾
西林 洋平³⁾，大村 勉³⁾，大藪 泰⁴⁾，恒次 欽也⁵⁾
岡田 徹⁵⁾，斉藤 晃⁶⁾，吉田 弘道⁷⁾，大橋真理子¹⁾
安藤 朗子⁸⁾，野尻 恵⁹⁾，倉橋 俊至¹⁰⁾，萩谷 克子¹⁰⁾

研究報告者 川井 尚¹⁾

研究協力者 庄司順一²⁾、横井茂夫²⁾、若麻績佳樹²⁾、西林洋平³⁾、大村 勉³⁾、大藪 泰⁴⁾
恒次欽也⁵⁾、岡田 徹⁵⁾、斉藤 晃⁶⁾、吉田弘道⁷⁾、大橋真理子¹⁾、安藤朗子⁸⁾
野尻 恵⁹⁾、倉橋俊至¹⁰⁾、萩谷克子¹⁰⁾

要約

育児における父親の役割について、3つの研究領域を設定し、検討を加えた。第1は、子どもの発達のプロセスにそって、父親のはたす役割について明らかにしようとするもので、今年度は幼児期の子どもをもつ父親の育児参加・父子関係と社会性・情緒行動的問題との関連及び胎児期（妊娠期）について、父親意識の発生と変化及び父親学級のカリキュラムの試案を作成した。第2は、心身障害児について、その育児に父親がどのように関わり、機能しているか、今年度は育児意識調査の結果を報告した。第3に、入院病児及び小児科クリニックにおける父親の関わりについて、面会率・相談参加率を通して検討を加えた。来年度は、この3研究領域に、健診への父親参加及び情緒・行動的問題をもつ子どもの相談過程への父親の関与の問題を加え、育児における父親の役割を明らかにし、今後の母子保健活動に父親をいかにとりあげていくべきか、その具体的な方策を提言したい。

見出し語：育児と父親、発達過程と父親の役割、心身障害児の父親、入院病児・小児科クリニックにおける父親の役割

1) 東京都精神医学総合研究所、2) 都立母子保健院（心理・小児科・産婦人科）、3) 松山赤十字病院 小児科、4) 長野大学、5) 愛知教育大学、6) 聖ヶ丘保育専門学校、7) 子どもの城 小児保健部、8) 日本女子大学、9) 桜ヶ丘記念病院、10) 東京都母子保健サービスセンター

研究目的

子どもの心身の発達や健康は、母子関係のみではなく、父子関係や父・母・子の三者関係のなかではじめて保証されると考えられる。いわば、父親が育児に参加し、その役割をはたすことが重要である。このことには、現在の社会状況も関与しており、第1に高齢化社会が進行し、この社会を支えるために母親就労は現在より以上に増大すること、第2に核家族化、それも孤立傾向が進んでいること、があげられる。このような社会状況にあって、母親のみが育児・家事を担わねばならないとするならば、母親の心身の負担は重く、ひいては養育を含めた家庭全体の機能の低下を招くことになる。その結果一番の弱者である子どもの心身の発達や健康は危機に陥り、諸々の情緒・行動的問題を発生させることになる。

そこで、育児における父親の役割とは何かを明らかにし、孤立した核家族状況、高齢化社会における母子保健活動に、父親をいかに取り上げていくべきか、その具体的な方策を提言することが本研究の三年間の目標である。

そのために、研究初年度である本報告は、そのパイロットスタディとして次の3つを研究課題とし、その研究の基礎を固めた。

- ①子どもの発達のプロセス（社会性や情緒等）に対する父親のはたす役割に関する研究
- ②心身障害児における父親の役割に関する研究
- ③子どもの入院、小児科クリニック、心理相談過程における父親の役割に関する研究

研究の方法

本研究目的を遂行するために、産婦人科医、小児科医、心理職によって研究班を編成し、それぞれの専門領域のもつ研究方法を生かしながら、例えば同一の調査項目を作成し、各研究領域について施行するなど、研究方法の統合をはかっている。

研究の成績

以上の研究領域毎に、研究協力者（以下班員と記す）による、研究報告の要約を述べる。

I. 子どもの発達のプロセスに対する父親のはたす役割に関する研究

1. SCT-PKS父親版からみた妊婦の夫の心理に関する研究

庄司順一 恒次欽也 川井 尚
若麻績佳樹 大橋真理子 安藤朗子
野尻 恵

庄司班員等は、子どもの発達のプロセスに対する父親のはたす機能—父子関係—について検討を行なっている。

本年度は、その関係の出発点である胎児期の児への父親行動について、文章完成法SCT-PKS父親版を作成、施行し、検討を加えた。

その結果を要約すると、①妊娠過程の進行と父親意識の変化を数量化Ⅱ類によって、解析した結果図1に示すように、妊娠前期と中・後期とでは高率をもって判別された。

このことは父親も妊娠過程のなかで、父親としての意識が発生しその態度や意識が変化していることを示している。そして、特にこの変化をもたらすものは、胎動であり、妻によって胎動を知らされ、父親としての意識を生じさせている。また、妻から妊娠をきかされたことへの反応も、中・後期になるとうれしい等Positiveな情緒表現が出現し、これは、父親としての意識がでて、はじめてよい情緒体験をもち得るのであろう。

胎児期の児への父親意識は、妻を媒介として生じることは明らかであり、今後夫婦関係との関連のなかで検討を加えるとともに、乳児期、幼児期の父親行動、父子関係についてSCT法を用いて明らかにしたいと考える。

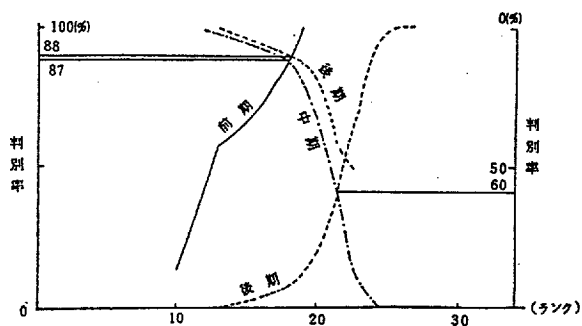


図1. 領域I「父親と胎児の関係」の判別グラフ

2. 妊娠・分娩に関する父親学級開設の検討

若麻績佳樹 庄司順一 川井 尚

若麻績班員らは、父子関係の形成と発達を援助し、また母親への支援のための妊娠・分娩に

関する父親学級のあり方について、次のようなカリキュラム試案を作成した。来年度はこの試案に基づいて父親学級を試験的に開催し、その効果について検討を加え、この時期の父親のはたす役割について調査研究を行なう。

〈妊娠・分娩に関する父親学級カリキュラム案〉

対象：妊娠16週以降の父親

カリキュラムは父親と対象に組んでいくが、できれば夫婦で受講することにより、共通理解を深め交流の機会としたい。

回数と時間：1回、2時間30分

カリキュラム内容

I. 妊娠・分娩・産じょく期の生理

産婦人科医が担当し、この時期の基本的な生理と産科疾患についての対応等を講義する。

II. 妊娠中の衛生管理、及び分娩時のリラックス法

助産婦が担当し、衛生上の基礎的知識及び分娩時のリラックス法について夫の理解援助の仕方について、講義する。

III. 胎児・新生児の生理・行動

小児科医が担当し、胎児・新生児の生理、初期発達及び新生児の生理的変化(黄疸、栄養)と、その対処の仕方について講義する。

IV. 妊娠期・産じょく期の精神保健

臨床心理士が担当し、妊娠・産じょ

く期の心理状態一般及び比較的生じやすい不安、抑うつ状態を中心として、精神的問題についての基礎的理解とそれへの対応について講義する。

3. 幼児期における父親の家事・育児参加および父子関係と子ども社会性・情緒・行動的問題との関連について ―母子保健活動への寄与―

川井 尚 大橋真理子 野尻 恵

安藤朗子 萩谷克子 倉橋俊至 庄司順一

川井班員らは、昭和63年度の幼児期後半の健診の意義に関する調査資料のうち、父親の家事・育児参加および父子関係の項目について、単純集計、クロス集計を行い、分析検討した。

父親の家事参加は60%強、育児参加は83%強の比較的高い比率を示した。今後その参加の内容を調べるとともに、家事・育児に参加しない父親の要因を明らかにしたいと考える。

父子関係については、子どもとの遊び・なつきについて検討した。子どもと遊ぶ父親は92%、子どもがよくなついている父親は66.7%、普通であるとするもの31.4%である。遊び・なつきの質的側面を検討することと、遊ばない・なついていない父親について、その要因を今後検討しなくてはならない。

父親の家事・育児行動、父子関係は、子どもの社会性の発達の問題と有意な関連を持っている。そしてこのことは、父親・母親の心身状態とも結びついているのであり、少なくともこの

4項目について、さらに検討を加え、母子保健活動において父親をいかに取り上げていくのか、そのマニュアルを作成したいと考える。

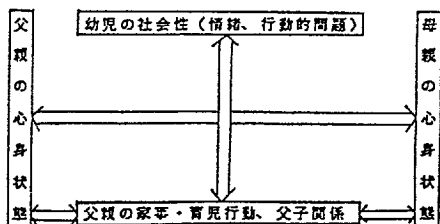


図1 4要因間の有意な関連（カイ自乗検定）

4. 現代社会における父親の存在感に関する基礎的研究

斉藤 晃

斉藤班員は、現在一般にいわれる「父親なき社会」「父親の権威の衰退」「父親の存在感の希薄さ」について、実際はどうか、まずその実態を明らかにし、そのうえで父親は育児にどう参加し、その役割をはたすのかについて、検討をはじめている。現在、そのための調査票試案を次に示す観点から作成し、パイロットスタディを行なっている。

＜父親＞ ①父親の子育て像
②父親の自己認知像

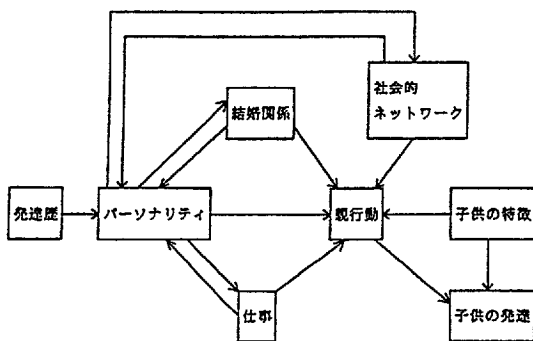
＜母親＞ ①母親の子育て像
②母親の自己認知像
③母親がもつ父親の子育て像

5. 母親による父親行動の評価と母親の養育態度に関する研究

大藪 泰

大藪班員は、父親の育児参加の程度と内容の実態を明らかにしたうえで、父親のサポート（育児参加、情緒的サポート、妻への夫の期待）に対する母親の評価を検討し、そしてその父親の育児行動に対する母親の評価の程度と、母親の現実の養育行動との関連を見いだそうとしている。

今年度は、そのための調査項目を図に示す Belasky の親行動の決定プロセスモデルに拠って作成するための文献検討を含め、基礎的な検討を行なった。来年度は調査項目を作成、施行し、上記の研究目的を達成したい。



親行動の決定のプロセスモデル (Belasky, 1984)

II. 心身障害児の父親に関する研究

1. 発達障害児をもつ父親・母親の家族観に関する研究

横井茂夫

横井班員等はNHK世論調査研究所の調査票をもとに、育児・家庭生活に関する、父親用・母親用のアンケートを作成した。

東京都世田谷区総合福祉センターの育成保育へ通所中の発達障害児45名（精神発達遅滞児18名、運動精神遅滞児14名、自閉的傾向児13名）の両親へアンケートを配布し、母親42名、父親37名の回答を得た。このアンケートは、NHK調査のデータ及び健常児の親のデータを比較検討できることである。世論調査研究所と同年代の一般家庭との比較では、ほぼ同様の結果が得られたが、今後さらに分析を加え、障害児の育児における父親の役割を明らかにしたい。

2. 障害をもつ子どもの父親の育児意識に関する研究

恒次欽也 岡田 徹

恒次班員らは、障害をもつ子どもの父親の育児意識についてアンケートを作成し、養護学校、小学・中学・高等部に在学する父母を対象に調査研究を行なった。

その結果を要約すると、①「父親と子どもの接触」について、父親自身が考えている以上に

(約60%)、母親は父親が子どもや家族と接触していると評価している(約70%)。即ち、母親は夫の育児参加を大目に評価しているようである。次に、子育てに対する態度について、父親の態度は甘い・やさしい等比較的柔軟であるのに対し、母親は自分の態度を口うるさい等否定的にとらえる傾向を示した。

「将来の希望」では、両親とも「社会の変化」によって子どもが自立できるようになることを望んでおり、また、「障害のある子どもの理想の生活の場」として両親とも「家族で地域に共存する」ことを願っている。また、父親の子どもへの態度よりも父親の具体的な育児行動に対して、母親は高い評価を与えている。母親は父親に対して、実行を望んでいるといえる。

最後に、健常児の父親との比較から、①障害児の父親は健常児の父親よりも子どもの相手を積極的にしているという意識が強い。②子どもに対して父親として頼りになる存在であるという意識は、健常児の父親の方が強い。

以上をパイロットスタディとして、来年度から障害乳幼児の父母を対象に、子どもの障害とその発達的变化や、夫婦関係など、家族内人間関係と父親行動との関連を明らかにし、母子保健活動の実際に有用な知見を得たいと考える。

Ⅲ. 子どもの入院・小児科受診・心理相談過程 における父親の役割に関する研究

1. 小児科クリニックにおける診療・相談過程 における父親の役割に関する研究

吉田弘道

吉田班員は、子どもの城小児保健婦のダウン症、言語・心理相談・乳幼児健康診断、肥満外来への父親の参加度を調べ、子どもが比較的な外指導・相談を受けているときの父親の相談参加、そのはたす役割について検討をはじめている。

図1に示したように、父親が診察及び相談に同席したことがあるものの割合が最も高かったのは、ダウン症外来及び相談(43.9%)であり、次いで高いのは言語・心理相談(40.7%)であった。肥満外来や一般健康相談、健診に父親がついてくることは少なかった。また、曜日の影響を調べるため、言語・心理相談について、相談日が日曜と土曜であるか或いは平日であるかに分けて、父親の参加度を比較した。その結果、土曜・日曜の参加度は18名中11名(61.1%)、平日は46名中10名(21.3%)であり、圧倒的に土曜・日曜の参加度が高かった。なお、土曜・日曜の相談では毎回父親が参加するケースもあった。さらに、父親が相談に参加したことの意義について、相談中に語られたことや相談中の態度からピックアップしたところ、「父親が子どもの悩みを理解し、子どもの力になった」「子どもの問題を悩んで母親が落ち込んでしまったときに母親を支

えた」などが、明らかになった。

来年度は、父親の相談参加による、児の発達の変化、情緒・行動的变化への影響を検討するとともに、父親が相談に来やすい、相談機関としての条件（曜日、時間など）について、具体的な試案をたてたいと考える。

表1 対象者

	人数
ダウン症の外来 及び発達相談（日曜日、火曜日、土曜日）	41
言語相談 及び心理相談（日、火、水、木、金、土曜）	64
乳幼児健診（火曜日金曜日）	131
その他健康相談、肥満外来1回だけの相談	240
計	476名

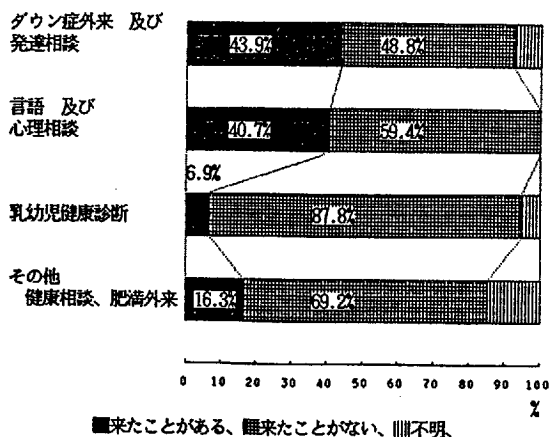


図1 診察 及び 相談への父親参加の割合

2. 疾病をもつ子どもに対する父親の役割に関する研究

西林洋平 大村 勉

西林班員等は、入院病児について、児と家庭の危機状況に父親がはたす役割について、父親の面会を通して明らかにしようとしている。

今年度は、未熟児・新生児13例、及び小児外科疾患等の入院病児20例について、父親の面会率を調べた（表1）。今回の調査では、小児外科疾患や白血病などいわゆる難病ほど面会率が高く、したがって、危機状況には父親が参加していることがわかる。しかし、新生児・未熟児13例（前例）については疾患の重症度・生下時体重等には関係なく、面会率23%と低値であった。児の年齢による面会への影響も考えられ、新生児期の父親の役割に関しても示唆に富む知見である。今後、面会率だけではなく父親の面会時の行動、母親へのサポート、夫婦関係、児の情緒的安定への効果等、質的な側面について調査し、児が入院するという事態における父親の役割を明らかにしたいと考えている。

表1. 疾患別の面会率

疾患別	症例数	面会率
小児外科疾患	7	85%
感染症	6	53
てんかん	3	42
心疾患	2	78
白血病	2	63
合計	20	
面会率100%	4例	国保 3例 健保 1
健康保険別面会率		国保 81% 健保 58

基礎資料 1

幼児期における父親の家事・育児参加および父子関係と
子どもの社会性・情緒・行動的問題との関連について

質問項目別、年齢群別 分布表

調査票の質問番号及び質問内容 その回答	N				割合			
	4歳	5歳	6歳	計	4歳	5歳	6歳	計
24 お父さんは家事に参加してくれていますか。								
1 よくやっている	89	299	140	528	17.9%	18.4%	18.1%	18.2%
2 時々やっている	211	694	325	1,230	42.5%	42.7%	42.0%	42.5%
3 殆どしない	180	595	286	1,061	36.3%	36.6%	37.0%	36.6%
4 何ともいえない	16	39	22	77	3.2%	2.4%	2.8%	2.7%
25 お父さんは育児に参加してくれていますか。								
1 よくやっている	158	534	249	941	31.9%	32.8%	32.1%	32.5%
2 時々やっている	255	824	397	1,476	51.4%	50.6%	51.2%	50.9%
3 殆どしない	62	228	101	391	12.5%	14.0%	13.0%	13.5%
4 何ともいえない	21	42	28	91	4.2%	2.6%	3.6%	3.1%
26 お父さんとお子さんはよく遊んでいますか。								
1 よく遊んでいる	202	663	324	1,189	40.8%	40.6%	41.8%	41.0%
2 時々遊ぶことがある	252	831	397	1,480	50.9%	50.9%	51.2%	51.0%
3 殆ど遊ばない	34	123	45	202	6.9%	7.5%	5.8%	7.0%
4 何ともいえない	7	15	10	32	1.4%	0.9%	1.3%	1.1%
27 お子さんはお父さんになついているようですか。								
1 よくなっている	320	1,079	528	1,927	64.5%	66.1%	67.9%	66.3%
2 ふつうだと思う	169	512	231	912	34.1%	31.4%	29.7%	31.4%
3 なつかない	1	21	8	30	0.2%	1.3%	1.0%	1.0%
4 何ともいえない	6	21	11	38	1.2%	1.3%	1.4%	1.3%

父親・母親の心身状態

父親・母親の 心身状態	4歳		5歳		6歳	
	父親	母親	父親	母親	父親	母親
心身快調	65.8	67.0	66.0	65.4	67.5	65.3
精神的不調	8.3	8.1	8.7	9.8	8.7	10.1
身体的不調	10.7	8.1	12.0	7.9	10.7	8.0
心身不調	1.0	1.6	2.5	2.3	1.4	3.2
何ともいえない	13.6	15.3	10.8	14.6	11.1	13.5

年齢別にみた項目間のクロス集計成績（カイ2乗検定にて有意の組合せを○印で示す）

項目	徴症状			習癖			食事の問題			社会不適 的行動			怖れ			睡眠障害			父親の 心身状態			母親の 心身状態		
	4歳	5歳	6歳	4歳	5歳	6歳	4歳	5歳	6歳	4歳	5歳	6歳	4歳	5歳	6歳	4歳	5歳	6歳	4歳	5歳	6歳	4歳	5歳	6歳
24 父親の家事参加																								
25 父親の育児参加																								
26 父親との遊び																								
27 父親へのなつき																								
28 父親の心身状態																								

基礎資料 2

SCT-PKS父親版からみた妊婦の夫の心理
に関する研究

対象数=247

表1 赤ちゃんが生まれるときいて私は

(項目10)

Rej	2.8
Fail	0.8
特異反応	4.0
うれしい、よろこび、幸せ	30.0
責任を感じる	11.7
不安と期待、うれしいけど大変	8.9
信じられない、半信半疑	6.9
母子無事に	5.7

特異反応 ・これで父親にならなきゃいけなくなってきた、もう逃げられないと思った。

・これは大変なことになると思った

表2 私はおなかの赤ちゃんに対して

(項目30)

Rej	2.8
Fail	1.6
特異反応	2.4
元気で生まれてほしい	32.0
～のような子どもに育ってほしい	13.8
愛情をもっている	7.3
はやく生まれてほしい	6.9
話しかける	6.9
責任と義務	5.3

特異反応 ・いつも不安でいる

・冷たい父親だろう

表3 おなかの赤ちゃんが動くとき(項目17)

Rej	0.8
Fail	0.8
特異反応	2.8
元気に育っていると安心	24.3
うれしい、感激	17.4
耳をあててきく、おなかにさわる	9.3
話しかける	8.9
神秘的、生命の神秘、不思議	8.1
出産日がまちどおしい	8.1

特異反応 ・こわい

・不自然な気がする

表4 出産(項目6)

Rej	1.6
Fail	0.8
特異反応	1.2
女性にとって大変なこと	13.4
女性の一大事業、女性の特権	9.7
まちどおしい、楽しみ、すばらしい	8.9
無事に軽くすむとよい	7.7
大変なこと(いろいろな意味で)	7.3
不思議、神秘、未知	5.3

特異反応 ・人間が動物になるとき

・はやくおわってもらいたい

表5 私の子どもはきっと(項目25)

Rej	1.6
Fail	1.6
特異反応	2.8
元気、丈夫、明るい、健康	19.4
性質(肯定的な面)	17.4
～に育てたい、～になってほしい	15.4
おとなしい、やさしい、すなお	11.7
男の子、女の子	8.9

特異反応 ・問題児だ

・自分たちに似ると思うと、うっとうしい

表6 私は子どもと(項目11)

Rej	2.0
Fail	0.8
特異反応	1.2
遊びたい、遊ぶのが好き	36.0
いっしょに～したい	25.9
仲よくいい親子	10.5
友だちのようでありたい	6.5

特異反応 ・別の人生を歩むつもりだ
 ・子どもとあまり遊ばない方だろう

表7 子どもが泣きやまない(項目34)

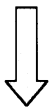
Rej	1.6
Fail	1.6
特異反応	2.0
困る、大変、あせる、つらい	21.5
腹が立つ、うるさい、怒る	19.4
理由を調べる、ようすをみる	10.9
心配、悩む	9.3
あやす、なだめる、抱っこする	8.9
別室で寝る、その部屋から出ていく	6.5

特異反応 ・考えただけでおそろしい
 ・なぐるつもりだ
 ・母親の責任

表8 子どもを育てることは(項目13)

Rej	0.4
Fail	0.8
特異反応	2.0
大変	40.5
大変だけと楽しみ(不安+よろこび)	15.8
責任、がんばる	9.3
楽しみ、しあわせ、うれしい	8.5
父親としての責任	6.1

特異反応 ・不安がいっぱいだ
 ・わからない



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 育児における父親の役割について、3つの研究領域を設定し、検討を加えた。第1は、子どもの発達のプロセスにそって、父親のはたす役割について明らかにしようとするもので、今年度は幼児期の子どもをもつ父親の育児参加・父子関係と社会性・情緒行動的問題との関連及び胎児期(妊娠期)について、父親意識の発生と変化及び父親学級のカリキュラムの試案を作成した。第2は、心身障害児について、その育児に父親がどのように関わり、機能しているか、今年度は育児意識調査の結果を報告した。第3に、入院病児及び小児科クリニックにおける父親の関わりについて、面会率・相談参加率を通して検討を加えた。来年度は、この3研究領域に、健診への父親参加及び情緒・行動的問題をもつ子どもの相談過程への父親の関与の問題を加え、育児における父親の役割を明らかにし、今後の母子保健活動に父親をいかにとりあげていくべきか、その具体的な方策を提言したい。